綾瀬市役所 職員

人間科学部・人間科学科
田崎 葵

「これまでを信じる」

社会教育を学ぶなかで「自分の成長につながる！」と思った機会は断らないようにしてきました。社会教育課程のカリキュラムには、ボランティアやイベントの企画運営といった成長の機会が多くあります。その機会を逃さずに参加していくことで、私は、様々な年代の方と関わることができ、何でも話せる仲間を得られ、人と関わることに抵抗がなくなりました。また、地元の公民館での社会教育実習の経験や、「かながわユースフォーラム」のために仲間と21時～翌朝５時半までZoomを繋いだ経験も、就活時の「これまでここまで頑張ってきたからきっと大丈夫！」といった自信につながりました。ワンポイントアドバイスとしては、参加した際、スマホに一言だけでもその時感じたことをメモしておくと、地域に対する自分の考え方見えてきて、エントリーシートを書くときに役立ちます。

後輩には「もう内定を貰っちゃった」「まだインターンシップにも行っていないよ～」といった周りの言葉に焦ったり安心したりする必要はないと伝えたいです。就活中はナーバスになりがちですが、その気持ちは面接にも反映されます。落ち着いて自分のペースで努力を重ねていくこと、きっとこれに勝るものはありません。社会教育課程で得た経験は、ガクチカになりますし、「もっと聞いてくれ！」といった気持ちで面接官にいきいきと伝えられるはずです。

「自分で積んできたこれまでの経験は自分が思ったよりもすごいもの！」
そんな風に胸を張って、これからの就活・学生生活を楽しんでもらえたらと思います。頑張れ！

横浜市役所 職員

人間科学部・人間科学科
藤本 幸

「社会教育で得た力」

私が社会教育課程で頑張ったことはかながわユースフォーラムです。私の所属した班では、「地域のお祭りの担い手となる若者を増やす」ということを目標して動いていました。その中で私は渉外を担当していました。その役割のおかげで、自分達がやりたいことを第三者に伝え、賛同してもらうための説明をする力を身に付けられました。この力を応用し面接で「志望先になぜ入りたいのか」「入って何をしたいのか」を適切に伝えられたと感じています。

また、社会教育課程を学ぶ中で多くの経験をしたことで、それは自分が何に興味を持つのか、自分は社会に出てどのようなことがやりたいのか、ということが見えました。具体例として、社会教育実習では、川崎市の「フリースペースえん」に行ったことが挙げられます。実習によって地方公務員になって地域の人の生活を支えたい」という漠然とした重いから「第3の居場所を作る・広めることで子どもと親の支えとなりたい」という具体的なものに変わりました。

このように。ユースフォーラムで得た力と、実習で得た思いが公務員の合格に結びついたと感じています。皆さんが社会教育課程で身につけた力もきっといろんな形で皆さんの役に立つと思います。皆さんのこれからがより良いものになることを願っています。

学校法人 職員

人間科学部・人間科学科
山﨑 裕菜

「思わぬ出会いと人生の選択」

私はファーストキャリアとして学校法人の職員を選択しました。私は入学時、将来やりたいことはなく、それどころか社会人になる自信すらありませんでした。しかし大学4年間で様々な人と出会い、夢を見つけ、卒業後の進路を意思を持って選択することができました。それはやはり社会教育課程のおかげです。

私は社会教育課程での学びを自己分析に活かしました。物事がうまく進まなければ、自身の行動や考え方を振り返り、仲間とぶつかり合えば自身の性格や価値観をとことん考えました。その時の自己分析が履歴書を書く上で役に立ったように思います。また、将来やりたいことができたのも社会教育課程で出会った人たちがきっかけです。思わぬ出会いと書きましたが、私はある人の一言が、あるひとつの実習先が選択のヒントになりました。そのヒントを見逃さないようにすることが、「やりたいことを見つける」ということにつながると思います。

就活の目的は人それぞれだと思います。中には就活という選択をしない人もいると思います。なので私の後輩へのアドバイスは、「何事にも自然体で」です。取り繕う就活ではなく、周りに合わせた進路選択ではなく、自分で考えて出した答えを活かして欲しいなと思います。

鉄道会社

人間科学部・人間科学科
二岡 侑子

「目を背けたくなる自分と向き合い続ける」

『私は新幹線の運転士になります。』

私は大学に入学してからこの言葉を周りの人にずっと言い回っていました。そして卒業後、鉄道会社で鉄道運行の最前線を支える業務に従事します。希望の職種に就くことができたのは、紛れもなく社会教育との出会いがあったからです。自分を出すことが苦手で自信がなかった私を変えてくれたのは、信頼できる社会教育課程のメンバーと、自己開示する訓練の場でもあった社会教育の環境です。また、就職活動中に自己分析に一番時間を費やしたことも納得する道に進めた理由だと思います。

自己分析は、家族や過去の友人との確執、縋り付いている過去や自分の短所など“自分が今まで目を逸らし続けたこと”に向き合える良い機会です。見たくないものに目を向け続けることは苦しいですが、過去、現在、未来の自分と対話をすることで「女性の自分が運転する姿を見た人たちが性別に関係なく好きな仕事に就けるきっかけになりたい」という自分のありたい姿を見つけることができました。

夢や将来やりたいことを見つけることは難しいです。しかし、今の自分は過去の連続であり、ヒントは必ず過去にあります。具体的な将来が見つけられなくても、「これから社会にどのような影響を及ぼしていきたいか」を言葉にできれば就職、進学、留学など自分が納得する答えが見つけられます。

自分の周りにいる人たちを大切にして残りの大学生活も楽しんでください。応援しています！

人材コーディネーター

経済学部・経済学科
土屋 孝太

「人とふれあう幸せ」

私は卒業後に「人材コーディネーター」の仕事をします。この仕事は人材派遣会社で人と向き合い、人と人を繋ぐことです。正に社会教育で得た学びと同じです。

私は社会教育課程を履修する以前は、人と関わることが苦手で、人をずっと避けて生きてきました。でも最近は「180°人が変わった」「やっと人間になれた」と言われます。なぜでしょう？それは、社会教育で老若男女、いろいろな背景を持った人たちと接し、向き合った経験からです。私はここで自分の居場所を初めて見つけました。そしてなにより人と話すことが幸せで楽しくなり、自分のことが好きになりました。就活では「人と向き合い、人の喜怒哀楽や幸せに触れられる仕事」を軸に進め、「人材コーディネーター」の職に決めました。

就職活動は企業が学生を選ぶのではなく、学生が企業を選ぶものです。たとえ、なかなか決まらなかったとしても、それはあなたが否定されているわけではありません。ただ自分と合わなかっただけです。ありのままの自分でいいと、就活で学びました。是非、視野を広げて、自分の壁をぶち破って下さい。。

お菓子メーカー 商品企画，開発

人間科学部・人間科学科
髙久 李美

「社教を通じての悩み！？」

私は、就活していく中で、社会教育課程に入ったことを理由に苦戦したことが１つだけありました。それは「アピールしたいネタ（経験）がありすぎて話が纏まらない」という贅沢な悩みです…笑 社教に所属する学生さんは、まず履歴書を作成している段階でガクチカや自分の特長などに書く欄が少なすぎて、これまでの経験からどの部分を切り取るべきか悩むことになるはずです。そして、書かなかった分、面接時にあれもこれも話そうとしてしまうと、せっかく積み重ねてきた成果や自分の魅力を十分に伝えられずに悔しい思いをしてしまうかもしれません。ただ、それは自分の料理の仕方（組み立て方、伝え方）次第なので、話の引き出しはいくらあってもいいはず！寧ろ、早くエントリーしなきゃ！早くインターンシップに参加しなきゃ！なんて思わず、社教を通じてたくさんの面白い人と交流して、たくさん行動・実践して、たくさん自信をつけてから、就活に挑む方が納得のいく結果や自分に出会えると思います。「え、面接って楽しいじゃん⁉」なんて感じてしまったらもう勝ちです笑

とは言っても、敢えて私は履歴書に社会教育のことはあまり書かず、大好物のグミについて書いてみたり笑…社教のことは、質問されたときに自信を持って楽しそうに語る（少し控えめに笑）ぐらいが丁度いいなと感じました。その結果、私は、お菓子の商品企画・開発の仕事に就くことになりました！正直、グミ愛を伝えるだけで終わった面接もありました笑 それでも、やはり常に私の軸になっていたのは「社教」。5W1Hを意識した話し方や自分の魅力の伝える力（自己理解力）、話を聞く力や人の魅力を引き出す力、質問する力（他者理解力）など、社会教育を通じて修得したあらゆる力（強み）を最大限に活かせるかどうかがポイントであったなと…！